わたしの聖戦（ジハード）

女性が働くということ ―― 193

医学ジャーナリスト・医学博士　植田美津恵

自己啓発セミナーと霊能者

このたびはじめて、本格的な自己啓発セミナーなるものに参加してみた。自己啓発セミナーとは銘打ってはいないが、内容からみて、それ以外の何物でもないと思うものだった。

勧めてくれたのは、年下の知人だった。これまでも度々彼の口からそのセミナーの話は聞いていたが、正直乗り気のしない時期が続いた。ある日、一緒に食事をしていたところ、またそのセミナーの話題になった。新婚の妻にも勧めてみたところ、大層評判が良かったとのこと。何故だかその瞬間、ハラリと気持ちが動いて3日間のセミナーに参加する運びとなった。いい経験になるだろうと思ったし、自分の性格が改善するきっかけになるかもしれないと考えたからだ。そう決めた時は間違いなく本気で純粋だった。

セミナーは、東京都内で3日間の予定で始まった。ひと月に一回の割合で開催しているらしいが、会場には200人もの参加者があって驚いた。やはり多くの人が、とても良いからという知り合いの、あるいは会社の上司からの、または家族からの勧めで参加していた。それだけ価値のある内容なのだろうと、次第に楽しみが増してくるのを感じた。

セミナーは、ひとりの講師によって進められていく。問いかけに対して挙手をし、講師に指名されて発言をする、それを受けて講師がまたひとしきり話を進め、そして参加者の発言を求めるという、その繰り返しであった。

午前中のセミナーが終わって休憩に入った頃から、私の気持ちが怪しくなってきた。何故か、さっぱりノ

ラナイのである。セミナーは、9時から22時半までという長丁場だったが、最後には耐えがたくなってきた。何が、って内容がまったく心に響いてこないことに、だ。しかし、会場を見渡してみてビックリ。当初は誰も彼も多少の猜疑心らしきものを持っていたのが、次第に何人かがトランス状態になっていくのがわかった。最初は数人だったものが、徐々にその人数は増え、2日目が終わる頃には、3分の2以上の参加者がもはや恍惚状態。これはひとえに講師の腕だろう。声に抑揚をつけながら、参加者の表情を見つつ発言をさせつつ朗々と話を進める。その運びは見事というしかなかった。その中でひとり、シラケている私がいて、もうとてもいたたまれない気持ち。結構高額な参加費だったが、2日目の途中で振り切るように退席してしまったのだ。

いやいや、これはいけない。この種の催しが胡散臭いという話はチラホラ耳にしていたが、大人数を同じ方向に持っていこうとするのはいかがなものか。私はシラケを通りこして、違う世界を垣間見た気分になり、一刻も早くその場から逃げたかった。

ところが数日後。占いが大好きな友人に勧められて、ある霊能者に出会った。曰く、あなたの前世はこれこれこういう人、から始まって、来年起こるであろう出来事をズバリ断言する。それに対し、疑問を抱くことなく素直に頷く私。そう、私はこの手の話が大好きなのだ。人によってはそれこそ大丈夫？　と疑問が湧くかもしれないが、放っておいてと言いたい。

思い返せば、これまでその方面の方々から同じ事を言われている。それは「60歳を過ぎてからがあなたの本当の人生」と「長生きしますよ」のふたつである。今回も同じだった。

そうか！　セミナーとの決定的な違いはこれ、明快な「夢と希望」の布告だ。あとはそれに向かって突き進んでいけばいい。心地よく生きていくのは、実はとてもシンプルな事なのだと改めて思い知った体験であった。

イラスト・伊藤栄章